

# MEIJI MURA

明治村だより  
2023 Summer  
110



## 明治村みらい基金

私たちの未来を豊かにする「明治」の価値  
一緒に残し、伝えていきませんか

歴史的建造物を中心とした「明治時代からの贈り物」を未来へ残し続けるためには、多くの資金が必要です。明治村事業へのご支援をお願いします。



### ご支援の内容

- ・本物の価値を残し、未来へ伝えるための展示建造物の維持・保存修理
- ・本物の価値を残し、未来へ伝えるための歴史資料の維持・保存修理
- ・未来の指針となる明治時代の価値を伝えるための展示(常設展及び企画展)
- ・明治時代製造の蒸気機関車及び京都市電の動態展示
- ・博物館明治村の事業全般

1回3,000円からご支援いただけます(マンスリーサポーターは月額1,000円から)  
公益財団法人明治村へのご寄付は一定の「税制控除対象」となります。

### ご寄付の方法

明治村みらい基金へのご寄付は、以下の方法で行うことができます。

- ・クレジットカード
- ・金融機関からの振込
- ・ゆうちょ銀行からの払込

詳しくは博物館明治村公式サイト内  
「明治村みらい基金」をご覧ください。



## 協賛会員 (令和5年7月1日現在)

敬称略:五十音順

### ゴールド会員

大成建設株式会社

矢作建設工業株式会社

### 一般会員

アイカ工業株式会社  
株式会社安藤・間  
因幡電機産業株式会社  
NTT都市開発株式会社  
鹿島建設株式会社  
株式会社熊谷組  
合資会社斉木研磨工業所  
サントリーコーポレートビジネス株式会社  
株式会社新高土木  
ダイキン工業株式会社  
株式会社丹青社  
東京海上日動火災保険株式会社  
西日本電信電話株式会社  
株式会社日立製作所  
ホーチキ株式会社  
三井不動産株式会社  
名高土木株式会社  
株式会社ヤシマキザイ

アサヒ飲料株式会社  
株式会社磯部組  
株式会社魚津社寺工務店  
株式会社NTTファシリティーズ  
株式会社関電工  
株式会社鴻池組  
株式会社ザイマックス  
株式会社シーイーテック  
株式会社スペース  
大興建設株式会社  
中京テレビ放送株式会社  
株式会社東芝  
西松建設株式会社  
株式会社ファミリーマート  
ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社  
三井不動産ビルマネジメント株式会社  
名鉄EIエンジニア株式会社  
若松物産株式会社

アサヒビール株式会社  
株式会社伊藤園  
株式会社エイムクリエイツ  
株式会社大林組  
キリンビール株式会社  
コクヨマーケティング株式会社  
サッポロビール株式会社  
柴山コンサルタント株式会社  
スターツ東海株式会社  
株式会社竹中工務店  
鉄建建設株式会社  
東洋電機製造株式会社  
能美防災株式会社  
株式会社フジタ  
前田建設工業株式会社  
三菱商事株式会社  
名鉄エアパートナース株式会社

厚見建設工業株式会社  
伊藤忠商事株式会社  
NTP名古屋トヨペット株式会社  
株式会社オノコム  
キリンビバレッジ株式会社  
五洋建設株式会社  
佐藤工業株式会社  
清水建設株式会社  
株式会社扇港電機  
株式会社谷澤総合鑑定所  
株式会社東急設計コンサルタント  
戸田建設株式会社  
株式会社長谷工コーポレーション  
株式会社不動テトラ  
三井住友海上火災保険株式会社  
三菱電機株式会社  
株式会社森本組

## CONTENTS

明治村の建築に視る日本近代青春群像物語〈十〉

森鷗外・夏目漱石住宅—猫の家と作家の誕生(その二)…02

企画展「これは事実か? フィクションか?! 明治アブない大衆事件簿  
— 錦絵版『東京日々新聞』の世界—」…04

A La Meiji-mura

小泉八雲が夏を過ごした仄暗い二階 — 屋根裏空間から居住空間へ…06

夏の催しもの…07



表紙について

「東京名所図 御殿橋之図」  
小林清親、明治12~14(1879~1881)年頃

「明治村だより」第110号(令和5年夏号) 令和5年7月14日発行

発行 博物館明治村

〒484-0000 愛知県犬山市宇内山1番地 電話 (0568)67-0314 <https://www.meijimura.com>

製作 大日本印刷株式会社

「明治村だより」第111号発行のお知らせ

発行時期 令和5年8月下旬予定

申込方法 「明治村だより」第111号ご希望の旨、およびご住所・お名前・お電話番号を明記の上、  
送料(含発送手数料)140円とともに現金書留でお申込みください。

# 森鷗外・夏目漱石住宅

# 猫の家と作家の誕生

(その二)

館長 中川武

## 一 「猫の家」に 居住していた時の漱石

そもそも鷗外漱石がこの「猫の家」に住み始めるために決め手になった理由は、前稿その二で簡単にふれたように、それほど明快なものではない。「千駄木」という、近代都市東京の中心部からそれほど遠隔地ではないのに、根津権現など江戸文化の香りを懐深くに垣間見せるようなところがある界隈が、欧州帰りの二人のかなり異なるタイプの俊英文人・文学者をひきつける場所があったのかもしれない。ともあれ鷗外退去後、いろいろないきさつがあり、約十年の後に漱石が入居したのであった。千駄木に住みはじめてすぐに漱石の身辺はあわただしくなる。この頃の漱石の身の回りの出来事を、順を追って整理する(註一)。

▼明治二十年頃、東京牛込の実業家中島氏が

- ▼同年三月、朝日新聞社主筆、池辺三山の訪問を受け、入社を決意。大学を退官。
- ▼同年四月、朝日新聞社入社。同月二十日に美術学校にて「文芸の哲學的基礎」講演。その内容を五月四日より六月四日まで二十七日に分けて朝日新聞に連載。
- ▼同年五月「文学論」および六月「猫」(下篇)を大倉書店より刊行。同月二十三日より十月二十九日まで『虞美人草』を朝日新聞に連載。同月、長男、純一誕生。
- ▼同年九月、牛込区早稲田南町に転居。以後大正二年初めまで、神経衰弱はおさまたがが胃病に悩みはじめる。この家は明治三十六年頃に三浦篤次郎というアメリカ帰りの人物が建てたものを、国文学者阿部正路の祖父徳吉郎が買い取り、家賃三十五円で漱石に貸したものであった(註二)。

漱石は、慶応三(一八六七)年に、江戸・牛込馬場下横町(現新宿区牛込喜久井町夏目坂付近)に生まれているので、早稲田南町の家とは近くである。しかし生後すぐに養子に出されたりなどのことがあったため、彼にとつて親しみやすい土地柄でもなく、また敷地は広い方だが、段差があったり、家が暗く古く感じられたり、住みやすい住宅ではなかったようだ。ともあれ、後に「漱石山房」と呼ばれたこの家で、東京朝日新聞社専属の小説家として、『三四郎』(明治四十一年九月一日〜十二月二十九日)、『それから』(明治四十二年六月二十七日〜十月十四日)、『門』(明治四十三年三月一日〜六月十二日)の前期三部作をはじめとして、『彼岸過迄』(明治四十五年一月一日〜四月二十九日)、『行人』(大正元年十二月六日〜同二年十一月五日)、『こゝろ』(大正三年四月二十日〜八月十一日)の後期三部作と呼

子息襄吉の医科大学卒業にあたり新居として、千駄木の家を新築。

- ▼明治二十三年九月〜二十五年一月まで、すでに陸軍医で文筆家としても活動していた鷗外が入居。
- ▼鷗外が観潮楼へ移った後、中島家の貸家となっていたのを、明治二十七年、漱石の学友で歴史学者の齊藤阿具の父が息子のために購入したが、予定が変わり空家となっていたため漱石が明治三十六年三月入居。
- ▼同年四月、漱石第一高等学校講師兼東京帝国大学英文科講師として着任。
- ▼同年七月頃、神経衰弱再発、二か月間妻子を実家に帰し別居。
- ▼同年九月東大で「文学論」開講(週三時間、明治三十八年六月まで)。
- ▼同十月、三女・栄子誕生。この頃水彩画、書に親しむ。
- ▼同十一月、神経衰弱再発(翌年四〜五月頃まで)。
- ▼明治三十七年一月「マクベスの幽霊につい

ばれる作品群など多くの名作、大作を執筆した。新聞連載小説は、一日一回分をその都度執筆するというスタイルをとっていたとのこと。

文学論やエッセー等で私が特に注目するのは、『夢十夜』(明治四十一年七月二十五日〜八月五日)や『硝子戸の中』(大正四年一月十三日〜二月二十三日)で、『猫の家』居住の頃には見られなかった漱石の文学的精神の行跡が読み取れるように思われる。時事問題に対しても漱石は直接発言することはなかったが、かつてはそこにも抑えきれないものの発露があった。やがてそれは文学的使命に移っていったのではないか。漱石の神経症の人世なくして、漱石の文学はなく、もし漱石の文学的探究なかりせば、日本の明治という時代は表情のないままか、または一辺倒のまま推移してしまふように受け取られるだろう。

## 三 作家の家と 作家の内面の表情

「猫の家」は、四つ間型民家の間取りを都市の一戸建木造平屋中流住宅に取り込んだような形式に見えるが、床の間のある部屋と前室を中心に、玄関から短い中廊下が発生している様子から、江戸時代後期の下流旗本住居を基にして、洋風住宅の応接間を考え方を玄関脇に突出させたものと考えるべきであろう。また、南北両面に兩戸がわりのガラス戸(当初は不明)のある外縁があって、庭や周辺への開放性が高い。現状の書斎はとても洋風には見えないが、当初、医院の診察室にという考えがあったのかもしれない。

「漱石山房」は同じく木造平屋建で、玄関の間を中央に、囲炉裏の切られた茶の間、子供部

て(『帝国文学』)発表。

- ▼同年四月明治大学講師となる。
- ▼同年十二月、高浜虚子のすすめで『吾輩は猫である』(第一)を子規庵の文章会「山会」で虚子が朗読。好評を得る。
- ▼明治三十八年一月、『吾輩は猫である』(以下「猫」)を「ホトトギス」に発表、文壇に名をはせる。
- ▼同年同月『倫敦塔』(『帝国文学』)。
- ▼同年二月「猫」「ホトトギス」に連載(四、六、七、九月)。
- ▼同年七月、東大で「十八世紀英文学」を開講、後に「文学評論」として明治四十年三月の退職まで続く。
- ▼同年十月「猫」(上篇)を服部書店(後の大倉書店)より刊行。二十日で初版売り切れ。
- ▼同年十一月、『薔露行』(『中央公論』)。
- ▼同年十二月、四女・愛子誕生。この年の中頃から、教師か文士のどちらかでやっていくべきか否かで悩む。
- ▼明治三十九年一月、「猫」「ホトトギス」に連載(三、四、八月)。
- ▼同年四月、「坊っちゃん」を「ホトトギス」に発表。
- ▼同年五月、『漾虚集』を大倉書店より刊行。
- ▼同年九月、『草枕』を『新小説』に発表。
- ▼同年十月、『二百十日』を『中央公論』に発表。

この月の中旬鈴木三重吉の提案で、木曜日午後三時より面会日を定める。後に「木曜会」として定着。

- ▼同年十一月、「猫」(中篇)大倉書店より刊行。
- ▼同年十二月、本郷区西片町に転居する。
- ▼漱石の学友の歴史学者齊藤阿具は、明治三十五年五月に仙台の第二高等学校に赴任し、翌年には海外留学していたが、帰朝して

屋などの和風部分と書斎と客間の続き間の三方をベランダで囲んだ洋風部分を、折衷というより併設した住居で、この洋風部分は医院の診察室として使う目論見があったらしい。そのことを漱石が意識していたとは思えないが、隠れた因縁(?)といえるかもしれない。住宅の平面、構造、隣近所、散歩のコース等々、有形無形に作家の内面に影響を及ぼさざるをえない。だがその影響がどのようなものか推しはかる方法がもしあるとすれば、作家が文学の創造に向き合っている時の表情がそのヒントだといえるかもしれない。私が「猫の家」と「漱石山房」に興味を持つ最大の理由は、「猫の家」の書斎の漱石(写真)は、普通とはいえないだろうが、精神の外部の出来事に対しても、抑え切れない関心が窺われる作家たるものの表情のように見受けられる。「猫」や「坊っちゃん」や大学における文学論探究の背景である。それに対して、「漱石山房」のベランダは、時期は不明であるがガラス戸で閉じられていた。漱石のエッセー集『硝子戸の中』はガラス戸の内側から想像した外部への心象風景である。そこで籐椅子に座る漱石の表情はまさに茫然自失の感があり、鬱蒼とした庭木立や雑草の中に閉じられてあることだけが救いであるかのような写真。また書斎の小さな紫檀の文机の漱石(写真)は、この極限化した小さなスペースからしか、あの波瀾万丈の『明暗』はうまれなかったであろうことを暗示する作家の内面の表情である。作家が持つ表面と内面、そして明と暗が誕生するためには「猫の家」と「漱石山房」が必要だったのである。

註一 『年譜』(漱石全集第二十七卷)二〇四、岩波書店  
註二 『漱石山房』の復元に関する基礎調査報告書(二〇一二、新宿区)

第一高等学校に転任となり、上京することになったため、漱石は住み続けたいと願った千駄木の家から離れざるをえなかったようだ。

家賃が高いことに苦慮していた話も伝わっており、「猫の家」が気に入っていたかどうか確信を得ないが、東大から近いこと、「木曜会」など身近な人間関係ができ、離れがたかった様子が窺われる。ともあれ漱石は「猫の家」から離れた。

本シリーズは「青春群像物語」であるから、当然人物の生活や精神の劇に注目するのであるが、同時に「明治村の建築」に視る」が付いている。「猫」の背景に「猫の家」があることが認められればそれなりの意味があるといえようが、それだけでなく、本シリーズの目的は、明治村のいくつかの建築がもつ諸々の特徴の生成転変を、そこに住み、関与した人々の青春群像劇のように取り出し、描いてみたいというところから出発している。その目的を「猫」と「猫の家」の関係で言えば、「猫」という小説の文体は、「猫の家」で生活していた時の漱石の精神の行動と関係があるのか無いか。あるとしたらどのような関係として描けるのか、という問題であろう。少し漠然としているが、漱石が千駄木の家に居た時の様子と比較するために、そこを出た後の彼の主な事蹟も整理しておく。

## 二 「猫の家」以降の漱石

- ▼明治四十年一月、『鶉籠』(中篇集を春陽堂より刊行)。「野分」を「ホトトギス」に、「作物の批評」を読売新聞に発表。
- ▼同年二月、朝日新聞社より招聘、交渉を始める。

# 夏の企画展

これは事実か？フィクションか?! 明治アブない大衆事件簿

# 錦絵版『東京日々新聞』の世界

会期 七月二十九日(土)～九月三日(日) ※休村日を除く  
 会場 三重県庁舎一階 特別展示室

## 博

博物館明治村では夏の催しの一つとして、館蔵資料から錦絵版『東京日々新聞』をご紹介します。企画展示を三重県庁舎一階特別展示室にて開催します。錦絵版『東京日々新聞』は明治七(一八七四)年八月から翌年九月までの一年ほどの間、絵草子屋「具足屋福田嘉兵衛」から発行された多色刷り木版浮世絵「錦絵」の一種です。毒々しいほどの赤色をはじめとした派手な色刷りの挿絵とセンセーショナルな三面記事が一枚の紙に「新聞(最新情報、新しい情報)」として刷られたもの、それが錦絵版『東京日々新聞』です。記事は東京の日刊紙『東京日日新聞』雑報欄に掲載の市井の事件記事から選ばれたものが多く、元記事の文体を替えたり、話を膨らませたりもしています。

錦絵版『東京日々新聞』のようなゴシップ情報紙的な錦絵、いわゆる錦絵新聞はこの錦絵版『東京日々新聞』を皮切りに、東京大阪を中心として雨後の筍のように四十種ほどが発行されました。中でも人気が高かったのが、人気浮世絵師 落合芳幾が絵師となったこの錦絵版『東京日々新聞』と、同じく人気浮世絵師で芳幾の兄弟弟子でもある

を巧みに遮り焦らすために意図的に置かれた画面中央の柱が、憎いばかりの効果を生んでいます。絵師・落合芳幾の画技が十二分に発揮された傑作です。

## 怪異

明治という時代になってもお、前近代的な怪異の実存は人々に信じられていたようです。幽霊や化物の話は錦絵版『東京日々新聞』でも多く採り上げられています。

### 【第百一号】

元記事・なし／発行 明治七年九月(挿図3)

場所は不明ながら、幼い二人の子を置いて死んだ母親の霊が、蚊帳の中で眠る我が子をかき抱き、乳を与えようとするという話を描いています。錦絵版『東京日々新聞』は事件の結末を勧善懲悪でまとめる手法を取るため、本話も「文明開化の今ではこんな話はないのだ」と結んでいます。絵はむしろ母の情愛をしみじみと私たちに伝えてきます。ここでは緑色の蚊帳を捲って入り込む母の口惜しいような切ない表情と、薄い幕としての蚊帳の質感表現と舞台効果が見どころです。

### 【第八百五十一号】

元記事・明治七年十一月十四日／

発行・不明(挿図4)  
 東京は小川町。某氏のとこに現れたのは、台湾出兵で病死したと知らされた義弟の霊でした。元記事では義弟が懐かしい様子で現れたとありますが、なぜか絵では義兄の後ろに銃を抱えて青白い恨めしそうな

月岡芳年が描く錦絵版『郵便報知新聞』(明治八年二月から明治九年十二月まで発行)の二紙です。錦絵版『東京日々新聞』が文章と画とが混然一体となり、怒涛の如く画面を埋め尽くすのは対照的に、錦絵版『郵便報知新聞』は紙面を記事部分と絵とを区分した尋常な画面構成でした。日刊紙『東京日日新聞』もぐんぐんと売り上げを伸ばし、太政官記事印行御用、つまり「政府御用」新聞となる一方で、難しい文章は読めず、必然的に画面の面白さで読む大衆層にはドラスティックな画面構成や芝居がかった人物のポーズが生み出すドラマ性に富む錦絵版『東京日々新聞』の需要が高まり、増刷を重ねたのです。

今回の展示では錦絵版『東京日々新聞』百面余から「傷害・殺人」「怪異」「センセーショナル」の三章で三十面余を選んでいます。ここでは各章の代表作をご紹介します。

## 傷害・殺人

市井で起こる様々な事件の中でも、傷害・殺人はやはり大衆の関心を強く惹く話題だったのでしょう。男女話のもつれ、強

表情です。義兄の心底(たまげ)消した表情と考え合わせるると、義兄は何か義弟に隠れて後ろめたい事を働いていたのではないかと、とも想像できる一枚です。

### 【第千五十五号】

元記事・明治八年六月三十日／

発行・不明(挿図5)  
 安芸国のある村で、義両親に不孝を働いていた嫁が受けた天罰の話です。顔は美しいが険のある態度を義両親にとる嫁に悩み、義父は心労で他界。義母も病に臥せるが嫁は看護もしない。そんなある日、天から不可思議な黒雲が現れ、大声で嫁の不孝を一喝。嫁は卒倒し、それ以後人が変わったように優しい性格になったといっています。黒雲に描き込まれた黒い目の怪異の迫力に圧倒されるようです。

## センセーショナル

思わず「え？本当に？」と眩(くら)まくなるような奇々怪々、荒唐無稽な出来事も、堂々と新聞記事になっているところをみると、いつの時代にも卑猥で下世話なゴシップ話は一定数、人々の需要があったことがわかります。

### 【第四百九十一号】

元記事・明治六年九月二十八日／

発行・明治七年十月(挿図6)  
 熊谷で起きた事件は、川越の遊び人が未亡人の母とその娘二人を妾としていたという話です。なんとも乱れた話ですが、絵では老母を柱に括りつけて、足蹴にして笑いのものにするという嘆かわしい一場面を描い

盗、狂気的な事件などバラエティに富んでいます。

### 【第八百三十三号】

元記事・明治七年十月二十四日／

発行・明治七年十月(挿図7)  
 東京は芝増上寺境内の揚弓場(女性と遊ぶこともできる矢場)での殺人事件を描いています。犯人はなんと巡査で、被害者は揚弓場で人気のあった矢場女の三人娘でした。巡査は三人を自宅へ呼び、次々と殺害したといえます。首元に広がる鮮血、無念そうな被害者たちの死に顔もさりながら、巡査の足についた血糊の手形が生々しく、なんとも凄惨です。

### 【第九百七十五号】

元記事・明治八年四月二日／

発行・明治八年四月(挿図8)  
 東京築地の料理屋で、左官が馴染みの芸者を刺殺した事件を描いています。ガラスを嵌めた高級品「雪見障子」を舞台装置とし、ガラス越しに見える被害者の表情や障子部分に映る影の表現もさることながら、室中の殺人劇を観ようとする私たちの視線

ています。とはいえ、何事かを言い返す老母の表情は、愛人に非難を浴びせるといふよりは放蕩息子に苦言を呈する母のようです。記事は四人が裁判所へ送られたと締めくくっていますが、苦笑してしまうようなとんでもない話です。

## 外

来の新しいメディア「新聞」が次第に日本各地で定着してゆくその初期のわずか三、四年ほど錦絵新聞は大衆に圧倒的な人気を博しましたが、続いて登場した「小新聞」と呼ばれる大衆向け新聞の速報性と情報量の前に、一敗地に塗れることになりました。加えて明治八年四月、錦絵版『東京日々新聞』製作に関わっていた落合芳幾らは錦絵新聞よりも安価で大量に印刷可能で、速報性の高い「東京平仮名絵入新聞」(のち「東京絵入新聞」という小新聞を創刊しました。追い打ちをかけるように六月、「新聞紙条例」(「讒謗律」が公布され流言飛語が禁じられると、真偽のほども知れない荒唐無稽な記事を扱う錦絵新聞は駆逐されてゆきます。ここに錦絵版『東京日々新聞』はその役目を終え、この年九月で終刊となったのです。

日進月歩、目まぐるしく技術も情報伝達手段も発展していった明治時代初期のメディアのあだ花ともいえる錦絵新聞の最高峰・錦絵版『東京日々新聞』。日頃はご覧いただくことができない貴重な明治村の館蔵資料です。展示室では一面一面に記事の内容や絵の見どころなど解説をつけ、ゆつくりと細部まで鑑賞いただけるように工夫しています。目を剥く紙面の数々を、ぜひじっくりとご覧いただければ幸いです。



## 『東京日日新聞』とは

幕末から明治時代初期にかけて、海外の新聞紙に影響を受けて日本でもニュース(最新情報)を掲載した新聞紙の需要が高まり、東京圏を中心に製作・発行が始まりました。その一つが、東京で最初の日刊紙『東京日日新聞』(明治5(1872)年2月21日創刊)で、今日の『毎日新聞』の源流となった新聞紙の一つです。  
 なお、創刊時は旧暦使用であったため、西暦では1872年3月29日となります。その後「改暦ノ布告」により明治5年12月3日が明治6年1月1日とされたため、『東京日日新聞』は第253号(明治6年1月6日)より新暦表記。それ以前は旧暦表記となっています。また本紙『東京日日新聞』と錦絵版では題字が「日日」「日々」と表記が異なります。



挿図6



挿図5



挿図4



挿図3



挿図2



挿図1

## 宵の明治村

浴衣なら  
入村料が  
半額!

浴衣来村でお楽しみ  
おまつり広場や  
謎解きゲームなどの  
割引券進呈!

8/5(土)・6(日)、10(木)~16(水)、  
19(土)・20(日)、26(土)・27(日)  
20:30まで延長開村!

※入村料は20:00まで、一部エリアは17:00まで。  
※雨天時は延長開村中止の場合があります。

### 野外ステージショー ※雨天中止

時間 ①18:30~ ②19:30~  
会場 帝国ホテル中央玄関前芝生広場特設ステージ

◆Dreaming JAZZ ナイト  
大人からお子様まで楽しめるJAZZライブをお届けします。  
出演/JAZZ SURVIVOR  
※ボーカルは開催日により異なります。

◆和太鼓パフォーマンス  
和楽器のパフォーマンスに洋楽器やダンスが融合した、伝統と創造が織りなす迫力のステージをお楽しみください。  
出演/和太鼓衆 SHIN

◆明治偉人隊公演  
明治の偉人たちによる歌と踊りのショー! 15(火)、20(日)はスチームバンク「異世界事情」を公演。  
出演/明治偉人隊

◆書道パフォーマンス  
「明治の涼」をテーマに書き上げる書道パフォーマンスと生演奏の響宴。  
出演/書道家:玲泉 ヴァイオリニスト:高嶋 英輔 ギター:石井 祐  
キーボード:BeBe ベース:村井 学 カホン:工藤 竜之介  
※19:30~のみ出演

野外ステージショー出演名	5	6	10	11	12	13	14	15	16	19	20	26	27
明治偉人隊													
JAZZ SURVIVOR		A											
書道パフォーマンス													
和太鼓衆 SHIN													

JAZZのボーカルは開催日により異なります。 A:尾崎真希 B:Junko C:清本りつ子 D:Luna

### 大道芸公演 ※雨天中止 会場 聖パピエル天主堂前

笑いあり、驚きありのパフォーマンスをお楽しみください。  
※詳しくは明治村公式HPをご覧ください。

### 花火競演 ※荒天中止

ライトアップされた歴史的建造物と、間近で見られる鮮やかな花火との競演をお楽しみください。

時間 20:00~ 会場 帝国ホテル中央玄関前 芝生広場付近



### 村のかき氷&ひんやりスイーツ

7/15(土)・9/3(日)  
※休村日・休館日を除く

暑い夏にぴったりのかき氷、食べるとひんやりするスイーツをご賞味あれ!

- ▲白うさぎのフルーツ氷 850円 / 食通楽のカフェ ※フルーツはかき氷の中に入れて提供します。 ※写真はイメージです。
- ▲フロアズいちごのけしり氷 600円 / 「食通楽のユウツゲ」と「小倉ドッグ」の店 ※休館日:「食通楽のユウツゲ」 ※各店販売します。
- ▼洋食屋さんのカスタードプリン 600円 / 明治の洋食屋 オムライス&グリル 浪漫亭
- ▲まんまびーち 600円 / 帝国ホテル喫茶室
- ▲マンゴー・マンゴー 450円 / 「食通楽のカレーぱん」の店
- ▲抹茶わらび餅氷 950円 / 京甘味処 なか井茶寮

その他のかき氷もご用意!  
※売り切れの際はご容赦願います。

### 明治おまつり広場

時間 16:30~20:00 会場 呉服座前

#### 明治偉人隊 呉服座公演

開催日 8/12(土) および野外ステージショー  
出演日を除く「宵の明治村」開催日

時間 ①17:00~ ②19:00~

会場 呉服座

出演 明治偉人隊

公演スケジュールなど、詳しくは明治村公式HPおよび、明治偉人隊公式SNSをご覧ください。



Twitter

### 金魚ちょうちん

会場 呉服座前

#### 尾飛の室内遊戯処 投扇興

開催日 8/16(水)を除く「宵の明治村」開催日

時間 18:00~20:00

会場 本郷喜之床 2F

料金 各1回500円

#### 噴水ライトアップ

会場 食道楽のカフェ横芝生広場

### 事前予約制 浴衣で明治村を楽しもう!

犬山日和  
コラボ企画

#### 浴衣レンタルと明治村入村券のお得なセット!

期間 8/1(火)~8/31(木) ※休村日を除く

料金 4,800円 ※大人のみの設定(明治村入村料、浴衣レンタル、着付け料込み)

男性用も  
ご用意しております

#### “浴衣 DE 思い出フォト” in 明治村

日時 8/5(土)、8/19(土)各日 16:00~18:30 ※雨天決行

参加料 1家族(1グループ)1,650円 ※入村料等別途必要  
※人数制限あり(定員になり次第締め切りとなります)

撮影時間 5分 会場 呉服座周辺

参加条件 浴衣を着用してご来村いただける方

#### ご予約・お問合せ

着物&浴衣レンタル  
犬山日和(犬山市犬山東古券195)  
TEL:0568-61-2532 ※明治村での取扱いとは異なります。

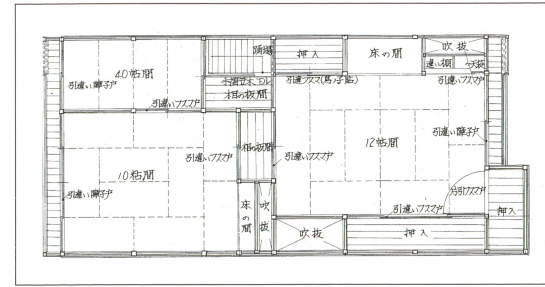


図1 二階 平面図

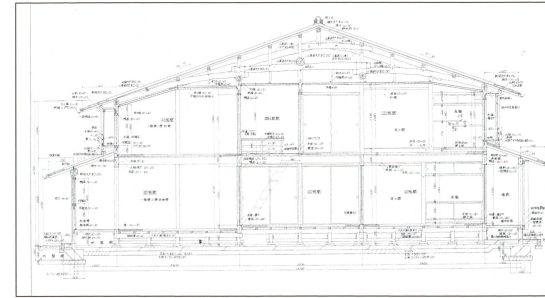


図2 縦 断面図

江戸時代、町屋では一階の上に作られた空間は居住空間ではなく、物置、蚕を飼う。二階の座敷の天井は軒に向かって部分的に傾斜しています。二階は十畳と十二畳の座敷と四畳の納戸となっており、座敷は二間とも床が付いています。この二階の座敷の天井は軒に向かって部分的に傾斜しています。二階は十畳と十二畳の座敷と四畳の納戸となっており、座敷は二間とも床が付いています。この二階の座敷の天井は軒に向かって部分的に傾斜しています。

八雲は身長160cm程度だったといわれていますので、天井高が2mほどしかない八雲避暑の家二階の天井は少し低く感じました。魚屋山は昭和四十六年に焼津から博物館明治村へ移築された、「小泉八雲避暑の家(以下「八雲避暑の家」と略称)として保存されています。八雲避暑の家は、明治初年頃に建てられた典型的な町屋の形式を備えています。一階左にはミセ、その奥に座敷があり、右は奥まで続く通り土間となっています。二階は十畳と十二畳の座敷と四畳の納戸となっており、座敷は二間とも床が付いています。この二階の座敷の天井は軒に向かって部分的に傾斜しています。二階は十畳と十二畳の座敷と四畳の納戸となっており、座敷は二間とも床が付いています。この二階の座敷の天井は軒に向かって部分的に傾斜しています。

#### 主要参考文献

- Lafcadio Hearn, "At Yaidzu". (「焼津にて」) In *Ghostly Japan* 1899
- Lafcadio Hearn, "Otokichi's Daruma". (「乙吉のたるま」) A *Japanese Miscellany* 1901
- 二代目山口乙吉「小泉八雲 滞在の家」財団法人博物館明治村編、「明治村評判帖 3」昭和47年11月所収(初出「太陽」昭和43年12月号)
- 菊池重郎「明治の商家—エッセイ 民家を考える—」財団法人博物館明治村編「明治村評判帖 5」昭和51年10月所収(初出「文藝春秋」ラックス版 日本民家とすまい」昭和51年4月号)
- 青木繁・阿部公正・伊藤鄭爾・犬塚恵三・内田祥哉・岸谷孝一・城谷豊・土田旭・平沢克彦編集「建築大辞典」彰国社 昭和52年3月
- 中村圭介「文明開化と明治の住まい 暮らしとインテリアの近代史(上)」理工学社、平成12年4月

ギリシア生まれのイギリス人で、新聞記者や紀行文・小説作家として知られるラファディオ・ヘーン(一八五〇~一九〇四、帰化名「小泉八雲」)は、明治三十年から逝去する明治三十七(一九〇四)年まで毎年のように静岡県焼津市へ避暑に訪れまし

た。焼津で定宿としていたのは山口乙吉の営む魚屋の二階で、二代目山口乙吉氏によれば、八雲は最初の年は妻子に書生等総勢七名の大所帯で訪れ、まかない費として一日につき三円五十銭を支払って一週間滞在したといっています。海辺の町・焼津の風土や主人・乙吉の気性が気に入った八雲は、それからというものの八月になると焼津を訪れ、魚屋山は二階で過ごしました。魚屋山は昭和

四十六年に焼津から博物館明治村へ移築された、「小泉八雲避暑の家(以下「八雲避暑の家」と略称)として保存されています。八雲避暑の家は、明治初年頃に建てられた典型的な町屋の形式を備えています。一階左にはミセ、その奥に座敷があり、右は奥まで続く通り土間となっています。二階は十畳と十二畳の座敷と四畳の納戸となっており、座敷は二間とも床が付いています。この二階の座敷の天井は軒に向かって部分的に傾斜しています。二階は十畳と十二畳の座敷と四畳の納戸となっており、座敷は二間とも床が付いています。この二階の座敷の天井は軒に向かって部分的に傾斜しています。

じられたのではないのでしょうか。また軒が低いと、真昼でも室内はさほど明るくなりません。それでも八雲は焼津での「数世紀前の生活」と、山口乙吉をはじめとする「古い日本の人たち」(「焼津にて」)の善性を愛していました。この仄暗く狭い、幾分前近代的な二階の座敷から八雲が垣間見ていた「日本」に、ぜひ想いを馳せてみてはいかがでしょうか。



## 小泉八雲が夏を過ごした 仄暗い二階

一屋根裏空間から居住空間へ  
4丁目48番地 小泉八雲避暑の家

た。焼津で定宿としていたのは山口乙吉の営む魚屋の二階で、二代目山口乙吉氏によれば、八雲は最初の年は妻子に書生等総勢七名の大所帯で訪れ、まかない費として一日につき三円五十銭を支払って一週間滞在したといっています。海辺の町・焼津の風土や主人・乙吉の気性が気に入った八雲は、それからというものの八月になると焼津を訪れ、魚屋山は二階で過ごしました。魚屋山は昭和



写真1 京都中井酒造



写真2 八雲避暑の家(手前と本郷喜之床(奥))